

兵庫まちづくりプラットフォーム設立準備会

加西市(播磨地区)ワークショップ

第一部(古民家見学編)記録



日 時 : 2003 年 3 月 15 日(土)

会 場 : 植木邸(加西市満久町)

西川邸(加西市王子町)

稲岡邸(加西市三口久町)

加西市(播磨地区)ワークショップ第一部(古民家見学編)記録

日時：2003年3月15日(土) 10:05～16:51

会場：植木邸(加西市満久町)、西川邸(加西市王子町)、稲岡邸(加西市三口久町)

参加者：有村、池内、稲井、稲岡、植木、卜部、大津、大林、小倉、神家、河辺、川村、木村、金時、久保、小泉、小森(久)、小森(星)、酒井、志賀、治部野、武田、橘、田中、田原、中尾、野崎(隆)、野崎(瑠)、野村、前田、間嶋、八木(景)、八木(雅)、山本、山脇、吉岡、吉川、吉田(充)、吉田(安)

ワークショップ第一部(古民家見学編)

民家再生工事現場見学(植木邸：加西市満久町)・・・10:05～10:55

(八木) 皆さん遠いところから民家再生ワークショップにお集まりいただきありがとうございます。主催者側を代表いたしましてご挨拶をお願いします。

(野崎) 皆さん、ご参加ありがとうございます。神戸まちづくり研究所の事務局長の野崎と申します。兵庫まちづくりプラットフォーム設立準備として地域ごとにテーマを決め、先週は但馬で田舎暮らしをテーマに、今日は八木先生のコーディネートで播磨地域の町並み保存と古民家再生をテーマでワークショップを行います。よろしくをお願いします。

(八木) まずはこの植木邸にて、民家再生工事の現場、ちょうど中間段階を見ていただきます。こちらは、説明を担当していただく設計担当の古田さん、それから構造設計担当の田原さん、施工担当の稲井さん、酒井さんです。それから施主の植木さんです。まず全体の話を古田さんをお願いします。

(古田) この建物自体は慶応3年に建てられ茅葺きの屋根でできていました。その後昭和26年に瓦屋根に改造されたということが分かっています。座敷4間取りになっており、土間の方は随分改造されています。1階の再生部分としては150㎡ぐらいと2階部分の40㎡で合計194㎡となります。それと屋根裏部屋が結構広い。それと増築された部分が33㎡ぐらいです。後は実際に見ていただきます。

(八木) 耐震補強の考え方については田原さんをお願いします。

(田原) 家が非常に重くて、2階の床に10t近くの重さのものが乗っていました。それを軽いものに変えて合板を貼っています。4t車にすると、壁も含めて10台出ました。連結はボルトでやり、基礎はベタ付けにしています。

(八木) 施工の方は酒井さんをお願いします。

(酒井) 今笹山で全面改装をやっていますが、結構古民家再生が見直されてきていると感じています。笹山では昔の建物で空き家が結構あり、外へ出て守りができなくて、行政が守りしてくれなければ取り壊すという話がよくあります。取り壊すのはもったいないので、商工会などと間取りを調べて保護していただくように行政をお願いしていこうと思っています。全般的な工事の管理は稲井さんの担当です。その辺の苦勞はどうですか。

(稲井) 実際に現場で働く我々にとって、設計者の意図を忠実に現場で施工していくところが一番難しいところです。リフォームという形ではないので、構造設計者の考え方を現場の職人さんがいかに図面を通して理解を深めていくかが一番苦勞の種です。要するにこういうケースの物件があまり少なく、職人さんも技術的にできないということではなく、慣れていないということです。解体から骨組みを固めていく段階で若干の戸惑いがありましたが、ようやく慣れて順調に進みかけています。当初は設計者に指導していただきながら、実際に施工していきながらというのが正直なところです。

(八木) 後でも皆さんが見てからの質問コーナーをつくりませんが、今の段階で第一印象から何か分からないことがありましたらお願いいたします。

(Q) 基礎の方はさわられたのでしょうか。

(A) 全面的に床を取りますとほとんど痛んでいるという状態でしたので、全面的にベタ基礎にしました。

(Q) その場合は一旦建物を持ち上げてですか。

(A) ジャッキで支えながら工事をしました。歴史がありますので当然昔の玉石基礎という形で構造物が

建っていますが、今までの台風で最大 35 mm ぐらい傾いていました。それが一定方向ではないので、どう修正して元に戻すかというのは、現場では非常に苦労がありました。最大 1t600 のワイヤーで引っ張って機械が潰れましたが、それでも戻っていません。それだけ骨組みが頑丈で戻るに戻らないということも、実際の経験として始めて勉強させていただきました。レベルについては昔の建物部分と改築部分とがバラバラでしたが、レベルを合わすのはさほど苦労は無かったのですが、全ての柱をジャッキアップして、レベルを調整して、底をベタ基礎でコンクリートを打ったという形です。

(Q) 構造的に南面の方が、開放が多いので、北面とのバランスを考えると壁が少なくなります。どれぐらいの割合で考えられたのでしょうか。

(A) 改築後の図面を見ていただいたら分かりますが、玄関、玄関横のダイニング、床の間というふうに割りとあるのです。後方の壁との偏心率で、0.21 ぐらいになります。2 階建てで検討して、許容量の新しい考え方の詳細法と標準法の両方やりました。

(八木) 構造の細かい話は難しいのですが、そういう方針だということです。ではこの場で一旦解散して、2 階へ昇って見ていただいたりした後に、質問、質疑を受けるという形にしたいと思います。

見学タイム(約 20 分)

(八木) ご覧になっての質問や分からないところがありましたらどうぞお願いいたします。

(Q) 改修後と改築前の図がありますが、そもそもどんなプランをしていたかというのはありませんか。

(A) そこまでは残念ながら今のところはできていないのです。潰してみ、いろいろな痕跡みたいなものがあるので、それをデータとして残しておいた方がいいかなとは思っています。座敷はそのままだったのですが、土間の部分はかなり新材で仮付けのようになっていましたので、柱がどこに入っているのか分からない部分も何ヶ所もありました。めくって見てこれは抜けない柱と分かるような状態でしたので、めくってからプランを変更したというも何度かあります。

(Q) 建具は前のものをそのままお使いになるのですか。

(A) できるだけ使いたいと思っています。変更の無いところはそのまま使いますが、変えるところも古い建具を加工して使うように、今図面をおこしています。寸法的な調整がちょっと必要ですけど。

(Q) 性能評価を取られたということで、(取っていません、構造的には同等だという意味です) そうなのですか。取っていたらすごいと思って、どこに力を入れたのかを聞きたいと思いましたので。レベル 2 と言われましたが、やはりそれぐらいは取りたいということでしょうか。

(A) 壁を付けていくとそれぐらいになりました。意図してではなく偶然そうなったということです。

(Q) 引きボルトは随所に見られたのですが何本ぐらいですか。それと中間材は入っているのですか。

(A) 50 本余り使っています。上階は比較的無いのですが、16 mm、12 mm の普通の横引きのボルトで引っ張っている形が多く、ほとんどが柱の根元を引っ張るという形で使っています。中間材はほとんどが、隠れる部分の合板同士をつないでしまうというような考え方で、後はボルト以外の金物でつなぐという考え方で指定を受けて、そのような形で工事を進めています。

(Q) 柱を切った分、基礎パディングで土台の上に留めてある分と、掘って下まで通してある分の違いはどういうことなのですか。

(A) その部分は、意匠的に見えてきますので、カットする形で柱は下まで伸ばしてくず石に、そういう形で和風調の仕上がりになりますので、他の玄関周りの柱と同じ状態です。かぶりには、その部分については全くコンクリートだけで後からはつる予定ですが、施工上そういう型を一連でつないでいます。

(Q) コストはいくらぐらいでしょう。

(A) こういう民家再生は、あまりコストをかけるとできなくなるのではないかと考えて、坪当たり単価で 60 万円ぐらいではないかと思っています。屋根裏部屋が坪には入っていないので、それを入れるともう少し安くなります。かなり施工の方で頑張らせていただいています。

(Q) そのコストで、構造と意匠とでどんな配分になりますか。構造的にかなりかかっているのですか。

(A) 工事の手順で、設計完了から着工までの間が開いています。無理を言って設計変更を随分しましたし、意匠の方も変えて、何とかここまでできました。

(Q) 改修はやる中でいろいろな要素が出てきます。普通の新築は、設計をして、それに対していくらという見積もりを最初から出して契約しますが、この場合はどうなのですか。

(A) 設計の時点でできるだけ金額を決めて変更の無いようお願いしていますが、それでも後で増えたりしているところもあると思います。

(Q) 伝統的な工法があります。玉石の上に柱が立ってというのと、土台を据えて柱を立てるのと基本的に違うわけです。その時に、伝統的な工法をどう残すかというテーマは無かったのでしょうか。たとえば古いものを残しているが、新しいのではないかと思います。どうしてそういう工法を探求できないかということなのです。

(八木) それは田原さんが答えますから、午後の準備をしておいてください。そろそろ時間がまいりましたので終わらせていただきます。

(野崎) 工事中の現場にもかかわらず大勢で押しかけまして、ありがとうございました。

(八木) それでは皆さんにお礼を申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。



民家再生後の生活空間(西川邸：加西市王子町)・・・ 11:20～12:10

(八木) 皆さんお揃いですか。こちらから、施主の方でお父さんの前田さんと息子さんの西川さん、それから設計の神家さんと構造設計の田原さん、施工担当の田中さん、施工企業の大林さんです。では、このプロジェクトのきっかけのお話を前田さんをお願いします。

(前田) 阪神大震災の影響で、大きな梁がねじれ、風呂のタイルにすごいひびが入り、何とかしなければという話で、若い者はあまりに家が大きすぎるので建て替えようという意見でした。古いボロ屋ですので、水回りも非常に不便で、特に冬場は外にいるのと変わらないという状態でした。それで皆で寄りまして、私はこの古い具材を大事にしたいという思いで、家内も始めそうでしたが、やはり若い者の考えに沿っていかねばいけないということで、潰して建て替えようと言っておりました。平成8年4月の新聞に、八木先生が震災の民家再生に非常に造詣が深いとの記事が掲載され、一度相談してみようと電話を差し上げましたところ、神家先生や田原先生を紹介していただきました。施工については川嶋建設の田中棟梁にいろいろお世話になり、誠心誠意やってもらいました。外から見える部分は皆さんがご覧のように立派にきれいに再生をしてもらったわけですが、見えない部分、壁一つにつきましても中に断熱材を入れてと、いろいろ細かい作業もしていただきました。12年4月着工で半年ほどかかりましたが、その間詳細に施工の過程を見せてもらいました。その見えない部分に非常に

力を入れていただき、頭の下がる思いです。こんなに立派にさせていただき、快適さと安心で毎日感謝と安らぎでもって生活しております。ありがとうございました。

(八木) 1対3の構図から変わっていった心の変化を、西川さんをお願いします。

(西川) 父からも説明がありましたが、建物自体が100年以上経っていて全体的に田舎のつくりですから、暮らしにくいといえ言ひすぎですが、今は2階建てのこぢんまりとした家が主流になっていますから、どうしてもそういう家に比べるとガラッとした感じで非常に使い勝手が悪かったのです。しかし、八木先生や神家先生、田中棟梁とかいろいろな方にお世話になり、想像以上にこの家が生き返りました。潰せばゴミになるだけですが、再生したことにより後50年なり100年なり、この家が生きるということが非常に喜ばしいことではないかと思うのです。古民家再生ということは、これからの時代ますます主流になってくると思います。ここに来られた皆さんもそう思われていると思います。やはり新しい建築資材はハウスシック症候群などいろいろ問題がありますが、古い民家はそういうことが一切無く、人の体と同じようにある程度馴染んできますから、建て替えでなく再生してもらったことを非常に感謝しています。

(八木) それでは設計の立場で神家さん、よろしくをお願いします。

(神家) 民家を再生する時に必ず出てくる話は、やはり住みにくいということで、寒い、暗いというのはどこの家にもあります。それをいくらかは解決をしますが、僕は全て快適な住まいが良いとは思っていないのです。昔の民家の持っている良さは、それ以外のところもありますし、多少不便な生活を楽しむこともこれからの生活の仕方としては大切ではないかと考えながらやっています。先ほど家が生き返って嬉しいというお話をさせていただきましたが、そういうふう喜んでくれるクライアントの方が多いので、こういう仕事をやっていて良かったといつも思っていますので、微力ながら自分の一つの生涯の仕事として頑張っていこうと考えています。いつも大切にしていることの一つは、民家の良さを引き出してあげたいということです。この家は非常に立派で民家そのものの良さがありますから、僕がこうしようとかああしようとか言わなくても、それが分かるようにしてあげたいということです。住んでいる人たちも、家に住んでいて気がつかない人が多いのです。今の新しい家に住んでいる人を見ると、何となく自分の家が古くて嫌だと思の人がいますが、本当は古いものは大変良いものですから、それを引き出してあげて再認識してもらえよう設計をしたいと考えてやっています。もう一つ大事だと思っているのは、使いながら残していくということです。元々建物を残そうという気持ちよりも、使いながら特に若い人たちが良いと思って使ってもらえれば、結果としてそういう建物がどんどん残っていくと思うのです。だから僕は、前に保存ありきという姿勢ではなくて、古いものを活用して、住宅でなくてもいろいろな活用をして次の時代に伝えていきたいと考えています。構造的なつくりは地域ごとに違いますが、一つの地域の中では同じ大工さんが何軒もつくっていたりして同じようなつくりが多いです。その地域は先ほど見たのと同じような構造で、土間の上にあれだけたくさん梁があるのは岡山ではあまり見られないつくりです。安全性については、震災以後皆さんは非常に敏感でいろいろと考えておられるので、僕自身もどういうふうにすればいいのかと悩みながらやっておりますので、いろいろと皆さんの意見を聞きたいと思います。クライアントにとって、構造的な安全性はある程度数字で示してあげた方が安心だろうということで、田原さんに次をお願いします。

(田原) 田中棟梁の方から先に話してもらいます。

(田中) 私どもの会社では、震災後からこうした古民家再生の事業に取り組み始め、当初から私もこの事業に取り組みさせていただいています。明石のト部さんのお宅が最初の仕事で、震災後で大変痛んでいました。一体これをどうしたらいいのかということで、本当に悩みました。神家先生のご指導の元、民家再生を手がけさせていただき7年目になりますが、本当に大変な工事で、施主の皆さんに本当に喜んでいただくことで、苦労したことが吹っ飛んでしまい、また次に取り組んでいこうという気持ちで頑張っています。先ほどの植木さんのお宅の工事現場と全く同じようにこの現場もやっていました。ただ、私のやり方と多少違った点を、今後の課題にもなるかと思っておりますのでお話しします。重要な通し柱の下は相当昔に石を二重三重にとついで、しっかりとした石の上に柱が乗っています。それが数百年間ももっているのです。それをベタ基礎にするためには、石を取ってしまわなければなりません。新しくそれを掘り起こしてそこで基礎をやり直すということは非常に弱くなりますし、建物がありますからしっかりと固めることができません。私はそれではと考え、先生方とも充分相談しながら、通し柱はそのままの基礎の礎石の上に乗せたままで、他は全部ベタ基礎にします。そして通し柱の元が

腐ったり先にいろいろ故障がおきたりした時に直せるように必ず 20 cm程度空けて四方に基礎をします。レベルを見たり、持ち上げておきながら調整したりできるので、家全体のジャッキアップはせずにベタ基礎をし、重要な柱は昔の礎石の上に乘せた格好で今までずっとやってきており、今後もそうしていこうと思っています。構造的なことでの特徴は、水平力や筋交いの面について、コボットという金物をふんだんに使っています。屋根裏とかいった面には、コボットでしっかりと締めて、地震に耐えるような施工の仕方をしています。そうしたことで、今非常に古民家というものが見直されており、伝統工法とかということが今非常に叫ばれている中で、そうしたことに對して一生懸命取り組んでいるという状態です。質問がありましたらお答えできる範囲内でお答えさせていただきます。

(田原) 施工でお世話になりました出石の川嶋建設です。古民家蘇生を手がけたのは、1990 年の前半だったと思います。最初に八木先生、神家先生にお世話になり、最初は象徴事業ということでスタートしました。言うなれば話題づくり的要素で、動機は非常に不純だったのです。どんどんとしていく間に、どうも私たちの考え方はちょっと違ったなということに気がつきました。それで私たちも古民家を調べて回っていたのですが、非常にまだたくさんの古民家があります。それをほっておくと、無くなってしまいうだろうということが分かってきましたので、そうなるまでこちらから働きかけて、こういう古民家の蘇生、再生という方法があるということをお持ちの方々にどんどんと知ってもらおうと、ビデオをつくって見てももらい広めていっているところです。それから今、古技術がどんどん失われていっており、90%がプレカットの住宅事情の中で、若い職人の仕事は工場から来るものを組み立てるだけになっています。私たちは今、一つ一つの材を自分の手で墨をつけて加工してそして組み立てていくような工法を、若い職人に伝えていくことにも力を入れています。

(八木) 時間が大分少なくなってきています。皆さんに見ていただく時間も取りたいと思いますので、質疑はこの場だけということにさせていただきます。何かございましたらお願いします。

(Q) これはお住まいになりながら改装されたのですか。それとも一旦出られたのでしょうか。

(A) 向こうに独立した建物がありまして、一旦そこに行きました。

(Q) 古い部分と新しい部分で完全に分かれるようになっていますが、意図的にそうされたのでしょうか。

(A) そうです。そういう説明も昼からスライドでします。そういうふう考えたということで、いろいろなスタイルの再生があればいいと思います。

(Q) 洗いと塗装というのはどういう考えですか。

(A) 基本的に塗装はしません。洗いも基本的には薬品を使わずに水だけでお願いしています。多少汚れが激しい時には薄い薬品を使うでしょうが、洗いは水だけで、塗装はやらないというのが基本です。昔の塗装で、柿渋を塗ることもあります。やはり新しいものは新しいものとして見せようと考えています。ただ時々、部分的に新しいものがどうしてもおかしいことがあるので塗ることもあります。

(Q) 坪単価はいくらほどですか。それと田中棟梁がこれだけは見てほしいというところはどこですか。

(A) 最初の質問ですが、骨組みは残り、大工さんは非常に手間をかけます。そして新建材は持ち込まず、壁土と木だけで済みますので、一般の建材よりも高くてついております。そのあたりでご判断下さい。

(八木) 数字については、午後の部でどこの家が分からないようにして数字だけ報告します。それから田中棟梁は、建築士連合会の今年度総会で特別表彰を受けられました。

(A) 古いものを壊したりもしますが、使える材料は全て還元というわけではないのですが戻すようにしています。その下駄箱の天板は、使ってあった良い材料を捨てずにもう一度製材し直して、幅が広くないので二つに継いで使っています。また玄関の上の木も、捨ててはもったいないので削り直して使っていますから、色も多少さらのように見えますが古く、それぞれに合った色になっています。柱根などを組み合さなければいけない時に、古いものと新しいものとはうまくいきませんので、大体同じ年代の木を持って来て継いでいます。こうした事業をやる中で捨ててはもったいないという木は全て持って帰って保存していますから、このものもそこから探してあてはまるような木でやっています。そういう方法で、なるべく使えるものは使ってあげるようにしています。ですから古いものを使っているのが安くなるだろうということは、かえって手間がかかっていますので、その辺はご理解してもらってやっています。

(八木) その他ご質問が無いようでしたら、どこも見ていただいても結構だということですので、皆さんご覧下さい。

見学タイム(約 15 分)



再生計画前の民家(稲岡邸：加西市三口久町)・・・ 13:45～14:15



「兵庫まちづくりプラットフォーム」設立準備会

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1番6号

神戸市生涯学習支援センター北棟3階

特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所内

TEL : 078-230-8511 FAX : 078-230-8512

E-mail = LET07723@nifty.ne.jp

Homepage = <http://www.netkobe.gr.jp/machiken/>

本冊子の一部または全部を無断で複写、転載することを禁じます。